

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：19520636
研究課題名（和文）20 世紀ロシア知識人のライフストーリーにみる親密圏と知的世界に関する研究
研究課題名（英文）Russian Intelligentsia' s Life stories, the Intimate Sphere, and the intellectual World in the 20th Century
研究代表者
松井 康浩（MATSUI YASUHIRO）
九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授
研究者番号：70219377

研究代表者の専門分野：ソ連政治社会史

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：ライフストーリー、ロシア、日記、往復書簡、知識人、親密圏

1. 研究計画の概要

本研究は、ソヴィエト知識人が残した日記や回想録といった自伝的記録、および家族や友人間で交わされた手紙を史料に用いて、そこに描写された彼らのライフストーリーの中に見出せる親密圏、及び親密圏に支えられた知的世界の諸相を明らかにすることを目的とする。

上記史料（ライフストーリー文書 Life story documents）の探索・分析のために「モスクワ個人コレクション中央文書館・博物館（TsMAMLS）」等のアーカイヴ資料を利用する。

2. 研究の進捗状況

1 年目は、上記の TsMAMLS で史料調査を行い、特に、後にロシア中世史の歴史家となり、旧レーニン図書館手稿部に勤務した E・N・オシャーニナ（1911-1982）の日記及び家族との往復書簡の分析に多くの時間を費やした。彼女は、1933-35 年に中国専門家の夫とともに中国に滞在した経歴をもつが、30 年代の日記に見られる彼女のライフストーリーからは、夫から自立して自らの人生を歩みなおすプロセスがうかがえ、スターリン体制下を生きた女性のキャリア形成としても興味深い知見がえられた。

以上のオシャーニナの日記を、もう一人の歴史家 A. G. マニコフ（1913-2006）が 20 代で執筆した日記の記述と比較分析する手法により、1930 年代を生きた若い知識人の知的世界の一端を明らかにすることもできた。この成果を、「スターリン体制下の世代・ジェンダー・抵抗—歴史家の青年期のライフストーリーを手がかりに」と題したパネル報告（日本西洋史学会）で披露し、また、それを

論文にまとめたものが、松井康浩編『20 世紀ロシア史と日露関係の展望』に収められている（松井康浩「20 世紀ロシア知識人のライフストーリー研究の可能性—歴史家の青年期の日記を分析する試み」）。

2 年目以降は、ライフストーリー文書を精力的に収集してきたモスクワのもう一つの文書館「民衆アーカイヴ文書センター」が、専門業者を通じて販売を始めた個人文書のコレクションを購入し、その分析に力を傾注した。本コレクションには、本稿のテーマに関連する複数の個人フォンドが含まれているが、特に注目したのは、1920 年代にトロツキー派に所属したため、その後、計 3 度の逮捕・投獄・労働キャンプ送りを経験した人物（A・S・ゾートフ 1902-1993）が 1970 年代-80 年代に執筆した回想録である。その解読は現在進行中であるが、この作業には、異論や異議申し立てを育む対抗的な知的環境と親密圏の関わりについての手がかりを得るねらいがある。

また、2009 年度ロシア史研究会大会で設置されたパネル「近現代ロシアの都市と文化」のパネラーの一人として「1930 年代モスクワの都市文化と都市的共同性」と題する報告を行ったが、そこでは、「民衆アーカイヴ」の文書調査から得られた知見をも盛り込んだ。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

主に分析対象とするライフストーリー文書を絞り込み、その検討作業も概ね順調に進んでいるため。

4. 今後の研究の推進方策

今年度が本研究プロジェクトの最終年度にあたるため、先に触れたゾートフの回想録の分析を完了させるとともに、民衆アーカイヴやその他の経路で入手できた個人文書にも手を広げて分析を進め、複数の知識人を対象にしたライフストーリー研究を取りまとめたい。

なお、10月16-17日に立教大学で開催される本年度のロシア史研究会大会で設置が決まったパネル「共産主義建設期の国家と社会」において、「後期ソヴィエト体制下の市民のソヴィエト国家/社会観—ライフストーリー文書を手がかりに」（仮題）と題した報告を行う予定である。本研究プロジェクトで得られた知見をふんだんに盛り込むことを構想している。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

①松井康浩、1930年代モスクワの都市文化と都市的共同性、ロシア史研究、第86号、ページ数未定、2010年5月末刊行予定、査読無

〔学会発表〕（計2件）

①松井康浩、1930年代モスクワの都市文化と都市的共同性、ロシア史研究会大会、2009年10月11日、法政大学

②松井康浩、スターリン体制下の世代・ジェンダー・抵抗—歴史家の青年期のライフストーリーを手がかりに、日本西洋史学会、2008年5月11日、島根大学

〔図書〕（計1件）

①松井康浩編、九州大学出版会、20世紀ロシア史と日露関係の展望—議論と研究の最前線、2010年3月、38-59頁